

6 | 講義内容

科目名	単位数	講義内容
資源生物学特別演習Ⅰ Seminar in Biological Resources D-I	2	所属研究分野の専門的知識を高度に高めることを目的とした演習を行う。学術的な文献のうち、実験研究をもとにした一次情報（オリジナルアーティクル）を自在に読み解くことができる能力を身につける。単一論文だけでなく、主要研究者ごとの研究論文を多数集め、その関係を図に表した「リサーチマップ」を作成し、所属研究分野の世界最新の研究情報をフォローする。博士論文研究を直接指導する研究指導教員（特別研究科目の担当教員）による単独で、あるいは当該研究指導教員が他の研究指導教員あるいは研究指導補助教員と分担して開講する。
資源生物学特別演習Ⅱ Seminar in Biological Resources D-II	2	演習Ⅰに引き続き、さらなる系統的な文献収集を行う。所属研究分野のみならず、農業を含む産業界、経済界に与えるインパクトについてのリサーチを行う。このことによって、農業研究が社会に対して果たす役割について強く理解することができ、農業研究の社会的意義を意識しながら特別研究科目を推進することにも役立つ。博士論文研究を直接指導する研究指導教員（特別研究科目の担当教員）による単独で、あるいは当該研究指導教員が他の研究指導教員あるいは研究指導補助教員と分担して開講する。
資源生物学特別演習Ⅲ Seminar in Biological Resources D-III	2	演習Ⅲでは特許情報についての文献収集を追加する。「リサーチマップ」に加えて「パテントマップ」の作成を身につける。研究者は所属がしばしば変わるので、共同研究者に研究内容がどのように引き継がれていくかについても留意する。博士論文研究を直接指導する研究指導教員（特別研究科目の担当教員）による単独で、あるいは当該研究指導教員が他の研究指導教員あるいは研究指導補助教員と分担して開講する。
資源生物学特別研究Ⅰ Research on Biological Resources D-I	2	博士論文研究指導担当教員が行う。まず3年間の研究計画を策定する。季節に依存したフィールドを対象とする研究では、実験研究の回数が限られることに留意すること。必要な分析機器類、試薬などを洗い出し、おおまかな経費を算出する。学内外の研究者との共同研究が必要な場合は、必ず研究指導担当教員を通して依頼文書を出すなどの手続きを取る。研究の進捗について定期的に研究指導担当教員に報告し、指導を受ける。なお、実験ノート等のデータはすべて本学に帰属するものであるため、研究終了後も大学に保管される前提で記録を取る。
資源生物学特別研究Ⅱ Research on Biological Resources D-II	2	博士論文研究指導担当教員が行う。得られた研究結果をどのようにとりまとめて学会誌への論文投稿が可能か考えながら実験を行う。投稿論文としてまとめることによって、論理展開の不備や、実験の穴をみつけることができる。論文は英文で準備すること。また、特別研究科目を指導する研究指導教員だけでなく、他の研究指導教員あるいは研究指導補助教員との日常的な交流が推奨される。このことによって、幅広い知識と実験技術を身につけることができる。さらに、学会発表（口演、ポスター発表など）による成果の公表を行うことによって、国内外の研究者からの批評を受けることも研究方針の練り直しに役立つ。
資源生物学特別研究Ⅲ Research on Biological Resources D-III	2	博士号を取得するための最終年次である学術誌への論文投稿を行うとともに、査読者とのやりとり、追加実験、論文の改訂再投稿を行う。所定の期日までに博士論文の題目を提出する。また、博士論文研究指導担当教員と綿密な打ち合わせを行い、博士論文の主査、副査を選定してもらう。11月に博士論文提出の可否を審査する予備的検討会を開催するので、プレゼンの準備をすること。このときまでに投稿論文が受理されていなくてはならない。12月に博士論文を提出するとともに口演による博士論文発表審査会による審査（最終試験）を受けて合格する必要がある。発表審査会指摘事項等を修正した博士論文は大学レポジトリに掲載するPDFファイルとして提出する。